



駒場のブロックBOX

●設計: 株石塚建築設計事務所 / 施工: ㈱大成ブロック建設工業 / 宏和建設㈱

お施主様は同じ6年3組。小学校・中学校の同級生である。昔、釣り名人だった彼は釣竿をブロックに持ち替え、今はブロック建設工業を生業としている。そうなればやはり自宅はブロックを積み重ねば…ということになり、着々と計画は進み二重の完全ブロックボックスが完成しました。

ここで同級生二人は改めてブロック建築の「良さ」を痛感します。大きな熱容量を保有する躯体は夏冬とも快適な室内環境を確保し、一見無骨に見える外観は、うそ偽りのない純粋さと力強さを感じさせてくれるのです。

「う〜ん イイかんじだねえ」竣工後にお施主様がボソッと一言が印象的でした。

■分離と一体空間

ご夫婦の希望は「くつろぐ場所と生活をする場所（食事等）をある程度分離したい」というコトでした。そこで、細長くカタチどった箱の両端にそれぞれのスペースを配置し、中心に機能空間をまとめました。但し、この二つの空間は幅の広いストレートな廊下によって繋がっているため完全な分離とはならず、少し体をずらせばお互いの気配を感じられるような「あいまいな距離」としました。このイメージは、二階のみんなのスペースにも応用しており、スキップフロアーとしたロフト部分のレベル差部分をオープンにさせることで、下階の生活の部屋との「つながり」を確保しました。

「分かれているけど繋がっている」この曖昧な感じを目指したのです。

■ユーティリティーを重視

一般的に北側に配置されがちなユーティリティースペースを南側に配置し、屋外テラスと繋がりたい…というのが奥様の希望でした。それであれば多目的な土間スペースを併設して、そこを基準に機能を繋げてはどうかと考えました。

汚れた作業靴で帰宅するご主人、雪まみれで帰ってくる子供達、毎日の洗濯物干し…これらを賄える空間を南側のあたたかな位置に配置し、そこに繋がったテラスの部分が道路側から少し目隠しになるよう物置を造る。この物置は道路側から見ると木板の塀のように感じられ、ブロック箱のアクセントとなりました。

…「ブロックとシナ合板で造られた、あいまいに繋がった空間」は、子供達が大きくなった頃、今よりもワントーン落ちたなんとも言えない味が出ていることを信じて、また近々様子を見に行こうと考えています。…(石塚 尚也)

設計概要

所在地：恵庭市駒場町
 主な用途：専用住宅
 用途地域：第一種低層住居専用地域
 建築面積：74.16㎡
 延床面積：147.60㎡
 構造階数：補強コンクリートブロック造2重積、2階建

仕 上

外 壁：コンクリートブロック化粧積
 屋 根：ガルバリウム鋼板（フラットルーフ）
 窓：木製サッシ・トリプルガラス（ノルド）
 天 井：コンクリート打放し／シナ合板
 壁：コンクリートブロック化粧積／シナ合板
 断熱・現場発泡ウレタン t=75
 床：かえで無垢フローリング

